

令和元年度 第3回大潟区地域協議会次第

日時 令和元年6月13日(木) 午後6時30分から
会場 大潟コミュニティプラザ2階 大会議室

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 次期「上越市総合公共交通計画」の策定について 資料No.1

4 協議事項

(1) 令和元年度地域活動支援事業(大潟区)の採択・補助額について 資料No.2

5 その他

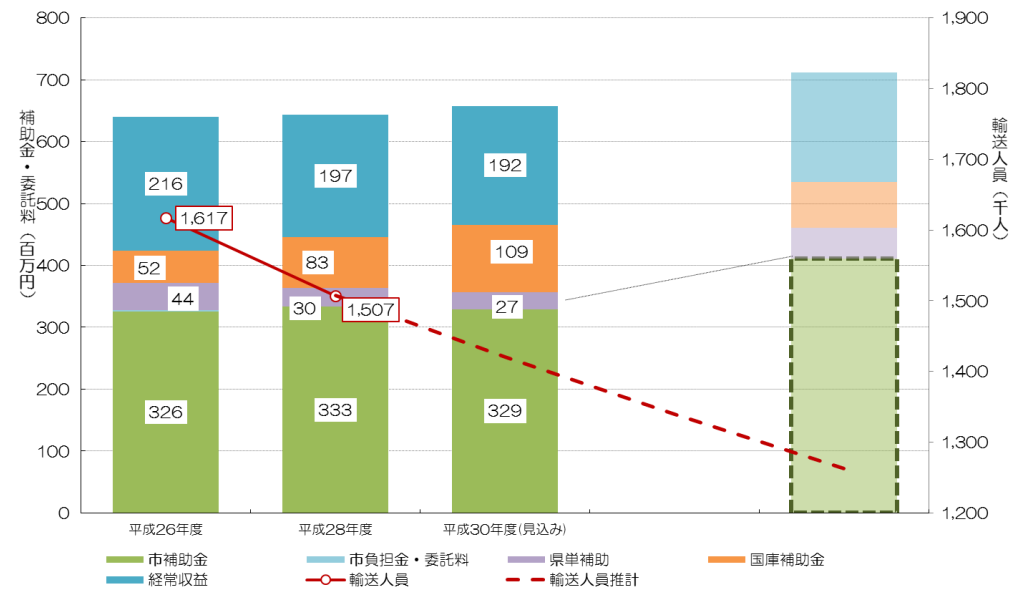
6 閉会

次期総合公共交通計画の策定について

1 計画策定の目的

- ・高齢化の進行や運転免許返納者の増加に伴い、これまで以上にきめ細かな公共交通を求める機運が高まっており、住民の需要を的確に捉え、利用しやすく、「乗ってもらえる」公共交通を再構築する必要がある。
- ・一方、少子化や人口減少、自家用車の普及が進む中、公共交通の利用者は減少傾向にあり、安定的な運行を維持するための市の財政負担は年々増大していることから、将来にわたって持続可能な公共交通を確保する必要がある。

■路線バス輸送人員並びに収入及び補助金の推移



2 計画の概要

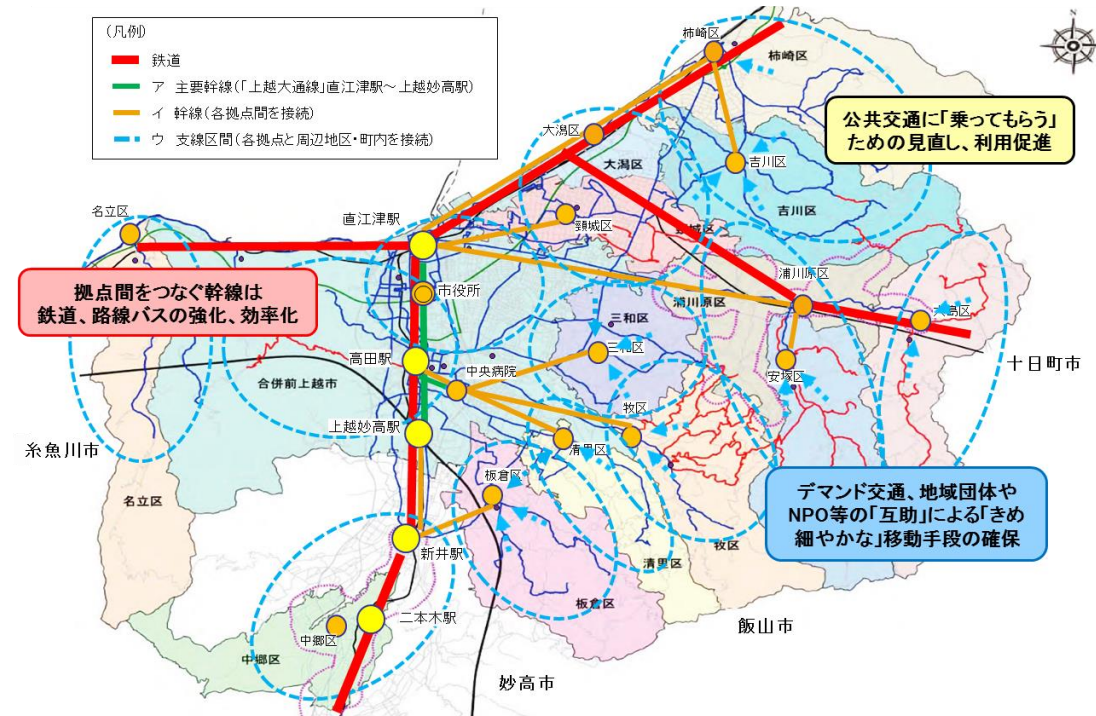
- (1) 計画区域 上越市全域
- (2) 計画期間 中間見直しを含め、令和2年度から8年から10年程度を想定
- (3) 公共交通ネットワークのイメージ

- ・バス路線を、基幹となる「主要幹線」、駅と各区をつなぐ「幹線」、地域内のきめ細やかな移動手段を確保する「支線」に役割分担し、役割に応じた本数、ダイヤ等を設定
- ・従来のバスに限らず、利用頻度や人数などに応じ、より小型の車両による「乗合タクシー」や、地域住民のボランティアによる「互助・自助」による移送など、きめ細かで使いやすく、効率的な運行形態を設定
- ・公共交通の維持が困難となっている現状を共有し、住民の参加による検討

3 スケジュール

		市全体の検討
R1年	5月～9月	・地域協議会、地区公共交通懇話会、地区懇談会等への説明・意見交換 ・地域住民、バスの利用者との意見交換
	～12月	・計画案の作成
R2年	1月	・パブリックコメント
	3月	・計画の策定

■公共交通ネットワークのイメージ



■支線における運行形態のイメージ

1人当たり利用頻度		利用人数/便				運行形態【市の支援】		運行本数
多い	少ない	10人以上	4～9人	2～3人	1人	定時	路線バス【運行補助】 スクール混乗バス【市営】	多い
○		○				デマンド		
	○	○				定時	乗合タクシー【運行補助】 自家用有償旅客運送【運行補助】 互助・自助による移送【車両維持費支援】	
○			○			デマンド	相乗りタクシー【運賃補助 週3回】 通院・買い物タクシー【運賃補助 週1回】	
	○				○			

■移動手段の例

移動手段	内容
スクール混乗バス	・小中学生のスクールバスに、一般利用者也乗車 ※当市5区で運行
乗合タクシー	・タクシーやジャンボタクシーの車両を使用し、バスのように利用者を乗り合いで輸送 ※中郷区で運行
NPO等による輸送	・公共交通がない地域において、NPO法人や町内会等が、白ナンバーの自家用車でバスを運行 ※妙高市、長岡市、魚沼市で事例あり
民間企業等が運営する循環バス	・商店街などがバス会社へ委託などによりバスを運行 ※高松市丸亀町商店街振興組合「まちバス」
互助・自助による輸送	・地域の自治会やNPO法人が、自ら運行ルートやダイヤを決め、地域の助け合いで利用者を輸送 ※新潟市「住民バス」
タクシーの運賃助成	・タクシーの運賃割引を受けることができる利用券を配付（相乗りは割引率が高い） ※前橋市で実施

次期総合公共交通計画の検討状況と再編の方向性について

1 現状調査の状況

(1) 実施状況

・計画の検討に当たり、住民の移動の実態や課題を把握するため、下記の調査を実施した。

項目	時期	目的	実施方法	実施人数
①公共交通に関するアンケート	H30年3月	市民の移動実態、公共交通に対する関心度、意見等を把握	市民6,228人にアンケートを郵送(回収率44.1%)	2,745人
②路線バス乗降調査	H30年6～7月	市内の路線バスの利用状況を把握	調査員がバスに乗り、利用者に聞き取り	5,932人
③高校生アンケート	H31年1月	高校生の通学利用のニーズ、課題を把握	高校1,2年生3,903人にアンケートを配付(回収率91.1%)	3,557人
④聞き取り調査	H30年4月～ H31年2月	高齢者等の移動の実態・課題、公共交通に対する意見の把握により、再編の方向性の検討材料を収集	町内会長を訪問し聞き取り	661人
			民生委員を訪問し聞き取り	226人
			サロン参加者に聞き取り	680人
			住民を個別に訪問し聞き取り	524人
			電話等で聞き取り	282人
合計	—	—	—	15,081人

(4)聞き取り調査の項目別、区・地域別の内訳

No.	項目	安塚区	浦川原区	大島区	牧区	柿崎区	大潟区	頸城区	吉川区
1	町内会長への聞き取り (集落カルテ調査等)	17人	34人	24人	39人	57人	22人	55人	50人
2	民生委員への聞き取り	11人	戸別訪問等を行うため実施せず	7人	10人	3人	18人	18人	14人
3	サロンでの聞き取り	80人	80人	12人	39人	14人	151人	58人	30人
4	戸別訪問	30人	137人	3人	56人	(住民懇談会実施予定)	他の調査で傾向がつかめたため実施せず H31の合意形成時に聞き取りを実施		
5	免許返納者への聞き取り	7人	10人	1人	3人	27人	58人	1人	11人
6	その他	病院利用者、バス利用者 105人	出張何でも懇談会 52人	高齢者合唱団 20人	地区懇談会 128人	地域協と住民との懇談会 (予定)	—	地区振興会役員 11人	—

No.	項目	中郷区	板倉区	清里区	三和区	名立区	合併前	小計	合計
1	町内会長への聞き取り (集落カルテ調査等)	24人	50人	25人	46人	35人	183人	661人	2,847人
2	民生委員への聞き取り	戸別訪問等を行うため実施せず	20人	8人	戸別訪問等を行うため実施せず	戸別訪問等を行うため実施せず	117人	226人	
3	サロンでの聞き取り	59人	他の調査で傾向がつかめたため実施せず	133人	8人	96人	戸別訪問等を行うため実施せず	680人	
4	戸別訪問	55人	55人	35人	88人	58人	62人	524人	
5	免許返納者への聞き取り	0人	28人	10人	12人	0人	114人	282人	
6	その他	ひばり荘利用者 18人	板倉中PTA役員 12人	老連、まちづくり団体 20人	病院利用者、老連役員 31人	健康づくり集会、福祉フェスタ 77人	—	474人	

(2) 調査結果の概要

①公共交通に関するアンケート (H30年3月)

■結果概要

- ・市民の約9割が公共交通を「重要」と認識
- ・70歳以上の高齢者は、約8割は自家用車により移動、公共交通(鉄道、バス、タクシー)は10.9%
- ・免許のない人は、家族等による送迎と公共交通による移動がほぼ半々
- ・便数、ダイヤ、乗換負担、ルート、運賃等の満足度が低い一方、バス停までの距離は満足度が高い

■計画への反映

- ・調査結果から読み取れる住民のニーズについて、聞き取り調査の結果とあわせ、検討の参考とする。

②路線バス乗降調査 (H30年6～7月)

■結果概要

- ・バスの利用者は、学生(小中高大)が41.4%で最多、次いで一般が27.6%、高齢者は26.4%
- ・利用の傾向(利用時間帯・区間・目的等の偏り)に応じて路線を分類
- ・バスの運行に対して意見・要望のある利用者は全体の1.4%(路線や企画切符の維持を希望する意見が41.1%、乗換の利便性向上が9.2%)

■計画への反映

- ・路線の利用の傾向を踏まえ、各地域の再編案を検討する。(利用の少ない時間帯のダイヤ見直し・減便、主な利用目的を踏まえた路線の改善等)

③高校生アンケート (H30年1月)

■結果概要

- ・公共交通により通学する生徒(冬期)は、鉄道は1,732人(48.7%)、バスは379人(10.7%)
- ・バスの運行が改善すれば利用する(継続を含む)とした生徒は768人(21.6%)
- ・バスについての改善の意見が366件あり、内容は本数・ダイヤが37.0%、運賃が14.9%

■計画への反映

- ・高校生の通学の利便性の向上の観点から、各地域の再編案を検討する。
- ・ダイヤ改正についての意見は、H31年3月のダイヤ改正に反映した。

④聞き取り調査 (H30年4月～H31年2月)

■結果概要

- ・サロンや各種集会の参加者や戸別訪問により、高齢者等の移動実態を聞き取ったほか、町内会長や民生委員から、町内の住民の移動実態について聞き取りを行った。
- ・運転免許を持たない人は、家族や近所の人の送迎により買い物や通院の用を足しているため、バスを利用しないという意見が多かった。
- ・一方、バス停までの距離、ダイヤ、ルートといった公共交通に対する意見・要望が寄せられた。

■計画への反映

- ・調査で把握した高齢者、運転免許を持たない人などの意見、ニーズを踏まえ、各地域の再編案を検討する。

2 路線バスの再編の基本的な考え方

(1) 基本方針

計画期間はR2年度からR9年度までの8年間とし、市民の移動手段を確保するとともに、効率性を向上することで、持続可能な公共交通ネットワークを構築する。

①市民の移動手段の確保

- ・調査で把握したニーズを踏まえ、地域住民とともに、「乗ってもらえる公共交通」のための見直しを行うことで、市民にとって利便性の高い移動手段を確保する。
- ・公共交通の導入を行わない地域や路線を廃止する地域においては、互助による輸送への支援やタクシー券の配布等により、自助、互助による市民の移動手段を確保する。

② 効率性の向上

- ・効率性の向上により、最少の経費で最大の効果を挙げる公共交通とする。
- ・「乗らなければバスがなくなる」という現状を地域住民と共有し、路線の利用状況を踏まえ、一定の基準を下回る路線については、より効率的な運行形態への転換、さらには路線バスの廃止、互助による移送サービスへの転換を含めた見直しを検討する。

(2) 再編の基本的な考え方

① 公共交通ネットワークの整理と路線の役割分担 (P3 参照)

- ・路線を主要幹線、幹線、支線に区分し、役割を踏まえた利便性の向上、効率化を行う。
- ・駅から総合事務所を経由し、中山間地までを結ぶ路線は、幹線と支線に分割する。(宮口線等)

	主要幹線	幹線	支線
基本区間	上越妙高駅～直江津駅	駅～病院～区総合事務所	区総合事務所～集落
役割	市の中心地の駅・病院等の拠点間の移動と、市街地の生活交通を確保	13区・郊外の拠点から、市の中心地・駅へのアクセスを確保	集落から、日常生活に必要な機能がある拠点へのアクセスを確保
再編の考え方	・増便、ダイヤの改善等による利便性向上	・サービス水準を維持し、利便性を向上 ・収支悪化路線の効率化	・きめ細かな移動を確保 ・効率化のための再編が基本(運行形態の転換等)

■交通空白地の対応について (バス停から半径300メートル以上、高齢者の歩行速度：約60m/分で5分以上)

現状調査の結果	・聞き取り調査においては、自家用車や家族等による送迎により移動している高齢者が多く、十分な需要を確認できなかった。
基本的な考え方	・地域住民から公共交通の導入等について要望があった場合は、具体的な需要について聞き取りを行い、下記②と同様の指標によって十分な需要が認められることを確認した後、必要に応じて対応を検討する。(対応例) 路線の再編に伴う経路変更、公共交通の新規導入

② 路線ごとの評価に基づく再編の方向性の整理

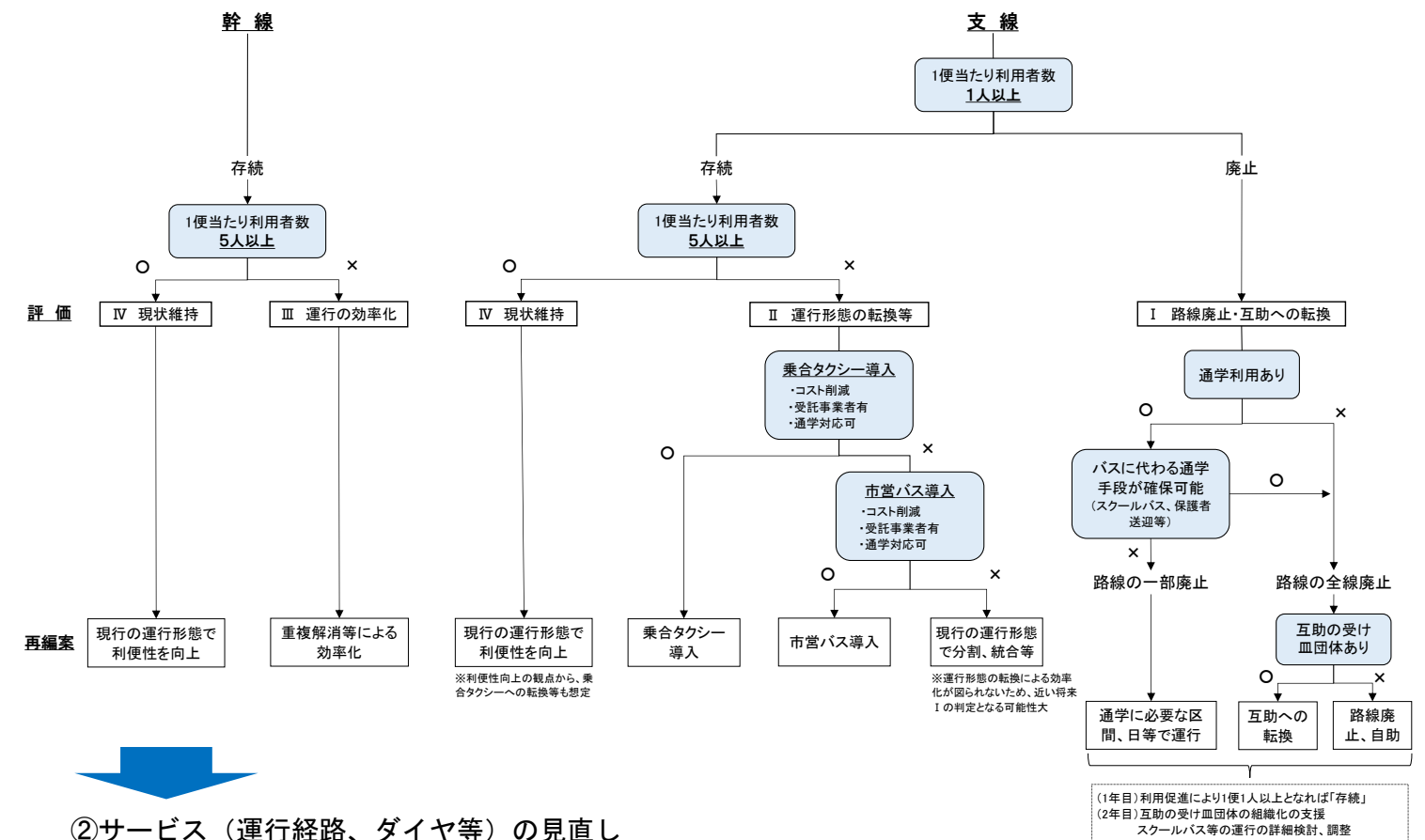
- ・バスの利用状況の視点から各路線を評価し、路線の再編の方向性を整理する。
- ・一定の利用がある路線は、地域住民のニーズを踏まえ、ルート、ダイヤ、本数等の改善を検討し、利便性の向上を図る。
- ・利用の少ない路線は、路線の重複解消、減便や、乗合タクシー、市営バス等への転換のほか、路線バスの廃止、「互助」による移送サービスへの転換を検討する。

3 スケジュール

		市全体の検討
R1年	5月～9月	・地域協議会、地区公共交通懇話会、地区懇談会等への説明・意見交換 ・地域住民、バスの利用者との意見交換
	12月	・計画案の作成
R2年	1月	・パブリックコメント
	3月	・計画の策定

■検討フロー(案)

① 路線の存続・運行主体の方向性の検討



② サービス(運行経路、ダイヤ等)の見直し

■利用の実態

- ・路線バスの利用の傾向を踏まえ、路線のサービスの改善・効率化の方向性を整理

利用の傾向		再編の考え方(サービスの改善の方向性)
A	利用時間帯に偏りあり	・利用が多い時間帯の定時便化 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、利用喚起 ・利用が少ない時間帯の減便
B	利用区間に偏りあり	・利用が多い区間の維持 ・利用が少ない区間のサービス向上、利用喚起 ・利用が少ない区間のルート見直し ・幹線、支線の分割
C	利用がほとんどない	—
D	時間・区間に問わず利用あり	・更なる利便性の向上
ア	利用目的に偏りあり	・利用の多い目的のための更なる改善 ・利用の少ない目的のためのダイヤ変更、サービス向上
イ	利用目的に偏りなし	・更なる利便性の向上

■地域住民の意見

- ・利用者や地域住民の意見・要望を踏まえ、路線のサービスの改善の方向性を整理
(例) 運行経路・ダイヤの見直し、バス停増設

③再編の方向性の検討

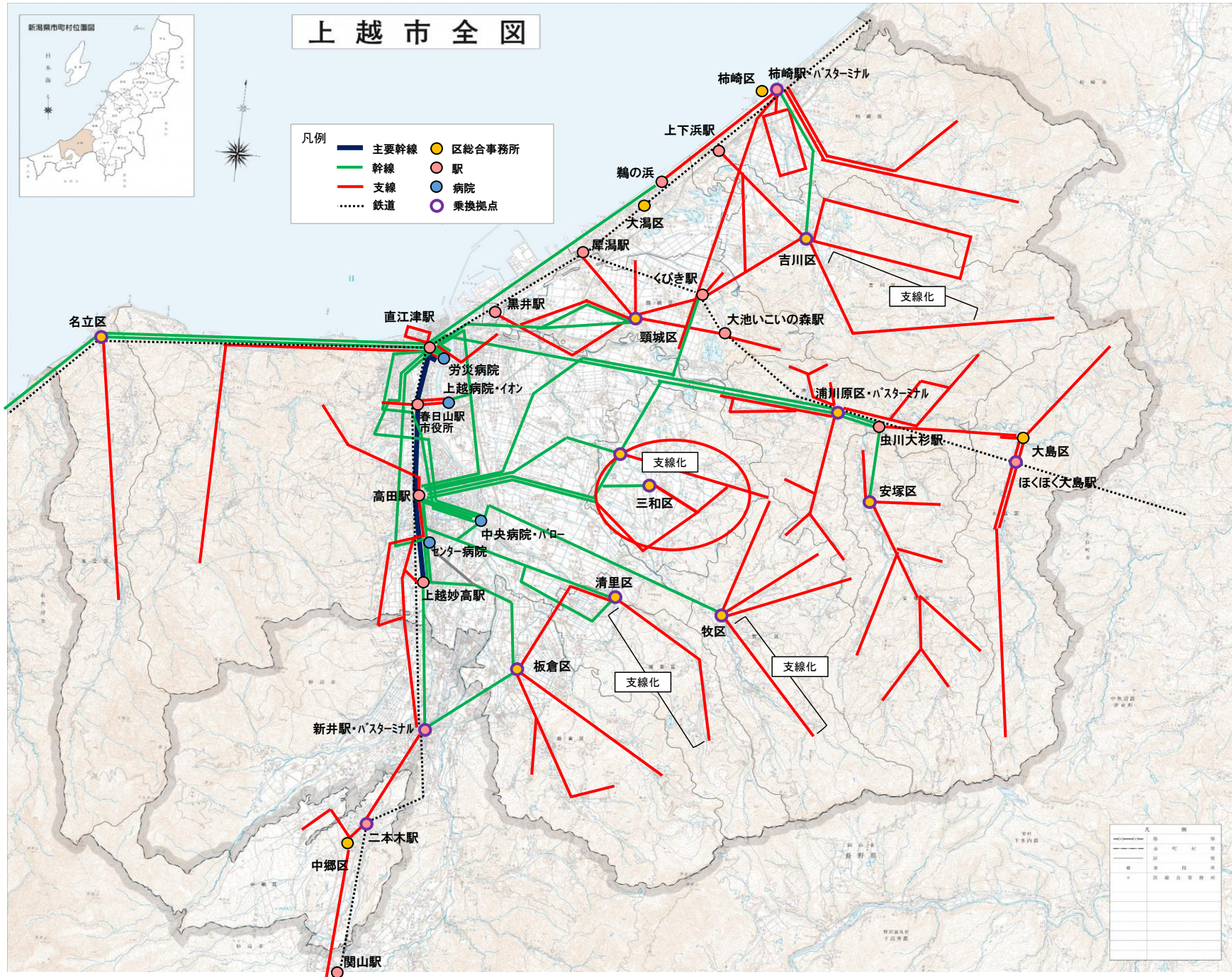
- ・路線ごとに再編の方向性を整理

※P4「再編の方向性一覧」



上越市全図

- 凡例
- 主要幹線
 - 幹線
 - 支線
 - 鉄道
 - 区総合事務所
 - 駅
 - 病院
 - 乗換拠点



凡 例	
—	市界
—	町界
—	区界
—	市界
—	町界
—	区界
—	市界
—	町界
—	区界

地域別公共交通の再編の方向性（大潟区）

1 各路線の評価

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況(路線バスはH30決算見込み、市営バスはH29決算)				再編の考え方①							
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用 者数 (人)	市補助/ 利用者1 人(円)	1便当たり 利用者数 (人)	平均乗 車密度	区分	内容
1	浜線	支線	13,680	1,160	12,521	8.5%	6,134	6,386	6,813	937	1.4	0.3	II 運行形態 の転換	・乗合タクシー、市営バス等の運行 形態への転換を検討
2	増田線(2)	支線	7,549	288	7,261	3.8%	0	7,261	2,091	3,473	1.1	0.2	II 運行形態 の転換等	・利用が少ない区間の廃止を検討
3	上越大通り線(1)	幹線	86,607	29,267	57,340	33.8%	38,051	19,289	220,253	88	21.6	2.1	IV 現状維持	・現状維持
合計			107,837	30,715	77,122	28.5%	44,185	32,936	229,157	144	13.5	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■利用の実態

No.	路線	利用の実態		
		利用の傾向 (乗降調査)	利用の特徴 (乗降調査)	再編の考え方②
1	浜線	A-イ	朝、昼は柿崎区への通院 が主	利用が少ない時間帯のダ イヤ変更 ・利用の少ない時間帯の減便、ダイヤ変更による利便性向 上と効率性の向上を検討
2	増田線(2)	C-ア	・午前は高齢者の利用あり ・明治小学校の児童が下 校時に利用	・ダイヤ変更、減便 ・利用が少ない区間の廃止を検討
3	上越大通り線(1)	D-イ	・朝、夕は大潟町小の児 童が通学で利用 ・昼は直江津方面への通 院、買物が主	・更なる利便性の向上 ・利用に偏りがなく、増便等の利便性向上を検討

■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)	
1	浜線	直江津まで直通、乗 継の要望(10人/36人 中)	・柿崎まで直通化の意見が22町内会中3町内会(会長等の 聞き取り) ・サロン7か所中1か所で、上越大通り線、浜線の直通化の 要望	・運行形態の転換を図りつつ、便数、ダ イヤの変更を検討 ・ダイヤ変更により乗継負担軽減を検討
2	増田線(2)	意見なし(0人/9人)	-	・利用が少なく、意見も少ないことから減 便等の縮小を検討
3	上越大通り線(1)	増便が14人、バス・鉄 道との接続、運賃の 要望が各4人(1229人 中)	・民生委員17人中2人が総合病院(上越総合病院、中央病 院)への直通を希望 ・柿崎まで直通化の意見が3町内会(町内会長) ・サロン7か所中1か所で、上越大通り線、浜線の直通化の 要望	・ダイヤ、便数等の改善を図り利便性向 上、乗継負担軽減を検討する

2 区全体の状況

■65歳以上の高齢者の移動先

	通院目的	買物目的
1位	区内 42.4%	区内 45.0%
2位	イオン・上越 病院周辺 28.8%	イオン・上越 病院周辺、夷 浜周辺20.0%
3位	直江津駅周 辺、中央病院 周辺10.2%	直江津駅周辺 10.0%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会
の割合

(参考) 地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	スクールバス	市	南大潟地区(大潟町小学校区)	平日
2	サロン送迎	まちづくり大潟	南大潟地区～やすらぎの家(九 戸浜)	月1回

■高校生アンケート

本数	・本数を増やしてほしい。(2人) ・通学バスを出してほしい。(1人)
運賃	・運賃が高い。(2人)
鉄道	・お昼(12時～17時)の電車の本数が少ない。(3人) ・混んでいる時間帯(16時以降等)の車両を増やしてほしい。(3人) ・ダイヤ改善の意見。(2人)

■聞き取り調査の状況

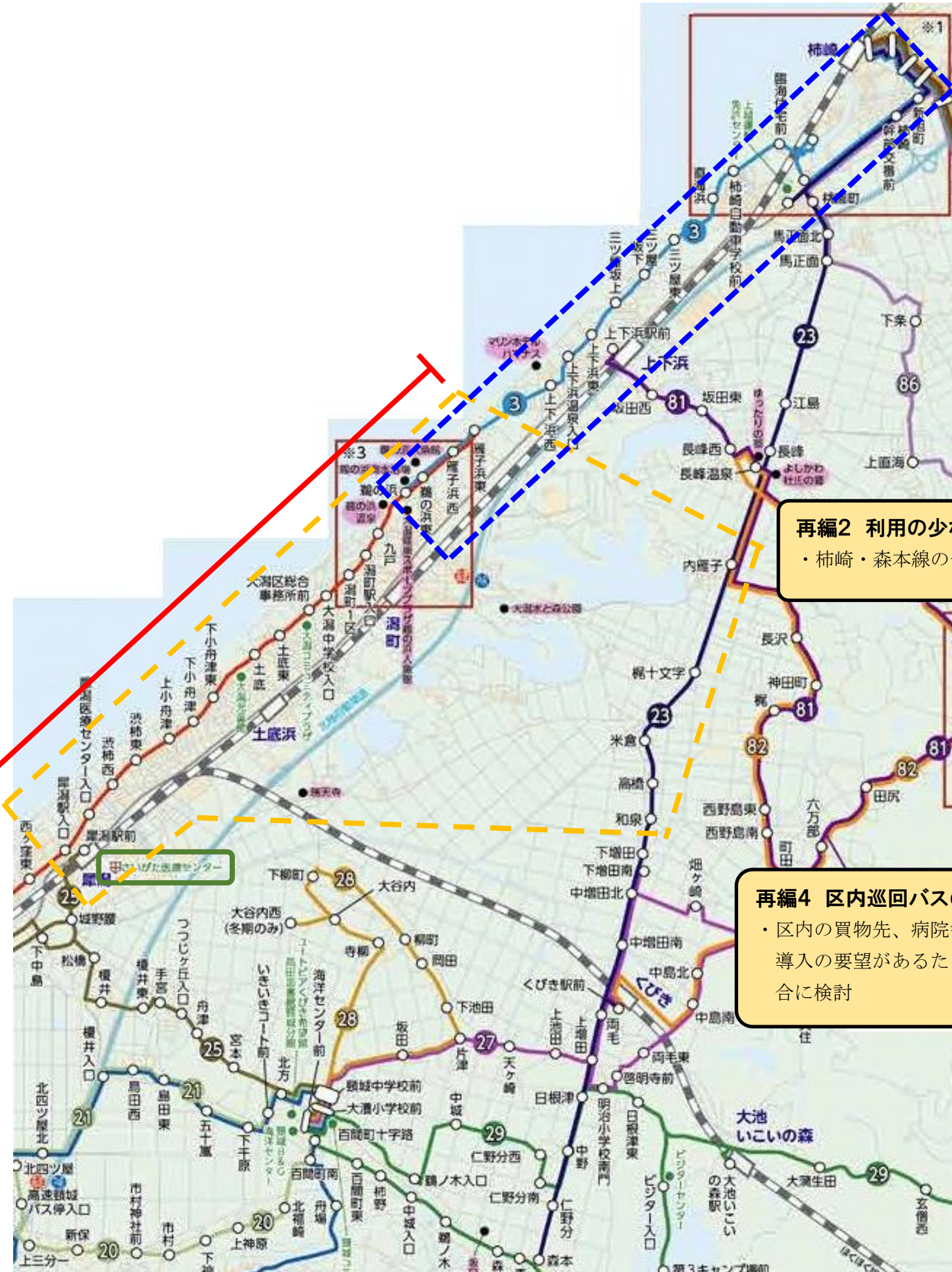
実施内容	実施状況	結果
町内会長への 聞き取り	22人	・上越大通り線、浜線の直通化の要望あり(3町内 会) ・空白地からの意見はほとんどなし
民生委員への 聞き取り	18人	・運転できない人のほとんどが送迎又はタクシーで移 動(16人/18人) ・現在困っているという意見はないが、4人から、将 来的に行先(区内)や曜日を限定した運行を導入して ほしいとの意見があった
サロンでの聞 き取り	151人	・参加者の3割弱は自分で運転、4割は送迎で移動 ・現在困っているという意見はないが、上越大通り線 ～浜線の乗換が不便、病院や買い物先等区内を循環す るバス(大潟区の南部～区内)の要望あり
免許返納者へ の聞き取り	58人	・約8割が家族、近所の送迎で移動 ・15人が困っていると回答しており、病院までの乗継 が困難、運賃助成等の意見があった
合計	249人	-

3 再編の方向性

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	浜線	支線	・乗合タクシー、市営バス等への転換、減便を検討し、効率性 を向上 ・ダイヤ変更による利便性の向上を検討
2	増田線(2)	支線	・利用が少なく利用者にも偏りがあることから、利用の少ない 区間の廃止、減便等の縮小を検討
3	上越大通り 線(1)	幹線	・増便等の利便性の向上、ダイヤ改善による乗継負担の軽減を 検討
4	大潟区の南 部ほか	空白地	・巡回バス導入の要望があり、需要が確認できた場合に検討

※幹線と支線の乗換拠点は鶴の浜

地域別公共交通の再編の方向性（大潟区）



再編1 浜線への車両小型化(乗合タクシー)等の導入

- ・車両の小型化(乗合タクシー)等の導入による効率性の向上を検討
- ・ダイヤ変更による利便性の向上を検討

再編2 利用の少ない区間の廃止

- ・柿崎・森本線の一部区間廃止

再編3 上越大通り線のダイヤ改善、増便等による利便性向上の検討

- ・ダイヤ改善、増便等による利便性の向上を検討

再編4 区内巡回バスの導入の検討

- ・区内の買物先、病院等を巡回する公共交通の導入の要望があるため、需要が確認できた場合に検討

令和元年度地域活動支援事業(大潟区)採択審査結果

(単位:千円)

採択方針の 事業区分	審査結果	提案 事業 No.	事業名	提案者	提案 回数	事業費	補助 希望額 (a)	調整額 (b)	決定 補助額 (a+b)	特記事項	採点結果											
											審査 員数 (人)	基本 審査 適合 (人)	採択 方針 適合 (人)	採点項目					計	最 高 点	最 低 点	平 均 点
														① 公益性	② 必要性	③ 実現性	④ 参加性	⑤ 発展性				
優先		9	大潟区の魅力発見・発信 事業	まちづくり大潟	2	1,718	1,717				14	14	14	63	62	65	56	62	308	25	19	22.00
優先		8	大潟区をアピールする事 業	まちづくり大潟	1	866	866				14	14	14	60	59	58	54	60	291	25	18	20.67
優先		6	大潟運動場(グラウンド及 びグラウンド周辺)の環境 整備事業	大潟フェニックス	1	1,150	1,150				14	14	14	53	57	58	52	52	272	23	15	19.50
優先		1	子ども体験事業	大潟の子どもを 育てる会	2	120	120				14	14	14	53	55	58	54	51	271	23	15	19.42
優先		2	九戸浜のお宝発掘事業	九戸浜町内会	2	721	720				14	14	14	50	50	55	51	49	255	23	14	18.17
優先		5	夜泣き地蔵看板設置及び 人魚伝説公園案内ポー ル設置事業	雁子浜町内会	1	670	669				14	14	14	56	47	52	48	46	249	24	13	17.67
優先		3	バスケットボールを通じて の地域活性及び青少年 の健全育成事業	マリンドリームズ やちほ	2	226	69				14	14	14	44	43	46	39	41	213	20	9	15.33
優先		7	生徒と地域をつなぐ活動 の周知事業	大潟町中学校PT A	1	1,770	1,490				14	11	11	40	40	41	36	39	196	21	0	14.58
優先		4	大潟地区自主防災支援 事業	上越市防災士会 大潟支部	2	522	521				14	11	12	42	34	32	34	33	175	19	2	12.83
計						7,763	7,322			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7200千円 - 決定補助額計 千円 = 千円

令和元年度地域活動支援事業(大湊区)採択・補助額(案)

提案事業No.	事業名	提案者	提案回数	事業費	(単位:千円)			採点結果					審査結果	配分額残額
					補助希望額(a)	調整額(案)(b)	決定補助額(案)(a+b)	審査員数(人)	基本審査適合(人)	採択方針適合(人)	採択方針の事業区分	平均点		
9	大湊区の魅力発見・発信事業	まちづくり大湊	2	1,718	1,717	0	1,717	14	14	14	優先	22.00	5,483	
8	大湊区をアピールする事業	まちづくり大湊	1	866	866	0	866	14	14	14	優先	20.67	4,617	
6	大湊運動場(グラウンド及びグラウンド周辺)の環境整備事業	大湊フェニックス	1	1,150	1,150	0	1,150	14	14	14	優先	19.50	3,467	
1	子ども体験事業	大湊の子どもを育てる会	2	120	120	0	120	14	14	14	優先	19.42	3,347	
2	九戸浜のお宝発掘事業	九戸浜町内会	2	721	720	0	720	14	14	14	優先	18.17	2,627	
5	夜泣き地蔵看板設置及び人魚伝説公園案内ポール設置事業	雁子浜町内会	1	670	669	0	669	14	14	14	優先	17.67	1,958	
3	バスケットボールを通じての地域活性及び青少年の健全育成事業	マリンドリームズやちほ	2	226	69	0	69	14	14	14	優先	15.33	1,889	
7	生徒と地域をつなぐ活動の周知事業	大湊町中学校PTA	1	1,770	1,490	0	1,490	14	11	11	優先	14.58	399	
4	大湊地区自主防災支援事業	上越市防災士会大湊支部	2	522	521	△ 122	399	14	11	12	優先	12.83	0	
計				7,763	7,322	△ 122	7,200	-	-	-	-	-	-	

令和元年度地域活動支援事業(大潟区)特記事項(案)

(単位:千円)

提案 事業 No.	事業名	提案者	提案 回数	事業費	決定補 助額 (案)	特記事項
9	大潟区の魅力発見・発信事業	まちづくり大潟	2	1,718	1,717	<ul style="list-style-type: none"> ・映像作成にあたっては、大潟区総合事務所及び観光交流推進課と協議しながら進められたい。 ・映像作成にあたっては、使用する画像・アニメ・楽曲などの著作権に留意し、法令等を遵守して使用してください。 ・発信ポイントとして選定されている(仮称)上越市体操アリーナは令和元年12月の竣工を予定しているため、撮影時期や場所等について、事前にスポーツ推進課と協議してください。
8	大潟区をアピールする事業	まちづくり大潟	1	866	866	
6	大潟運動場(グラウンド及びグラウンド周辺)の環境整備事業	大潟フェニックス	1	1,150	1,150	
1	子ども体験事業	大潟の子どもを育てる会	2	120	120	
2	九戸浜のお宝発掘事業	九戸浜町内会	2	721	720	<ul style="list-style-type: none"> ・上越地域の歴史には差別を受けていた人々の歴史もあることから、紹介誌に掲載する記述や資料等には特段の配慮が必要です。 ・冊子は完成後、参考資料とするため文化行政課へ1部寄贈(難しい場合は貸与)をお願いします。
5	夜泣き地蔵看板設置及び人魚伝説公園案内ポール設置事業	雁子浜町内会	1	670	669	
3	バスケットボールを通じての地域活性及び青少年の健全育成事業	マリンドリームズやちほ	2	226	69	
7	生徒と地域をつなぐ活動の周知事業	大潟町中学校PTA	1	1,770	1,490	<ul style="list-style-type: none"> 備品の適正管理の観点から、明確な表示等により事業主体リース備品と学校リース備品との区分け管理が適正に行えるのであれば、備品のリースに支障はありません。 ただし、事業主体リース備品の修繕・メンテナンス費用は、事業主体から負担いただくこととなります。
4	大潟地区自主防災支援事業	上越市防災士会大潟支部	2	522	399	
合計				7,763	7,200	